

滋賀県高体連調査研究委員会の取り組み  
— 部活動安全点検マニュアルの活用からの一考察 —

滋賀県立長浜北星高等学校定時制

岡 美 成

## 1 はじめに

平成 27 年の 5 月の時点において、滋賀県全日制高校生の運動部活動（以下、「部活動」と略す）加入者は 19,451 人を数え、加入率は 50.3% である。生徒には安全な部活動が保障されるべきであるが、様々な要因により事故が起きているのが現状である。その理由として、顧問の能力、生徒の状態、施設の状況、自然環境などを踏まえた適切な安全管理と危険回避に対する配慮が行き届いていないことも一因であると考えられる。こうした事態を防ぐために、生徒の安全を守るために必要な環境整備を図るとともに、部活動顧問の安全に関する知識や管理能力を養うことが急務となる。

そこで、本県高体連調査研究委員会は、平成 26 年度に経験の浅い顧問の危機管理意識と能力を高めるため、部活動安全点検マニュアル（以下、「マニュアル」と略す）を作成し、県内全日制高校に一斉配布した。本報告では、このマニュアルの使用実態と評価を明らかにし、本県の部活動顧問の活動におけるさらなる安全管理能力向上を目的とした事故防止ガイドラインを構築するための情報を得ることを目的とした。

## 2 部活動安全点検マニュアルについて

### (1) 作成経緯

平成 24 年 12 月 4 日に、滋賀県高体連理事 33 名、滋賀県高体連評議員 47 名の計 80 名から滋賀県高体連調査研究委員会に望む部活動の健康・安全に関する研究課題についてのアンケートをとった。その結果、高体連理事、評議員ともに、部活動における傷病に対するサポートについての関心が最も高く、有効回答数の 35% を占めた。本県では、部活動指導において自身の専門種目ではない部活動の顧問になる教職員も少なくない。そこで部活動中の傷病事例を減らすために、専門種目に精通していない顧問にも活用しやすく、傷病に対してあらかじめ安全に配慮できるマニュアルを作成することとした。作成したマニュアルは平成 26 年 4 月 18 日から平成 26 年 6 月 13 日にかけて、県内の全日制高等学校 46 校に 1 部ずつ郵送した。また、平成 26 年 7 月 29 日には、新任教員 57 人に初任者研修の場で 1 部ずつ配布した。

### (2) 作成方法

マニュアルは以下の形式で作成した。

#### ① 様式

A4 サイズ縦置き 1 ページ（全角 48 字× 42 行、上下 20mm、左右 15mm の余白）  
明朝体 10.5 ポイント ※各競技専門部作成のマニュアルを冊子に集約（110 ページ）

#### ② 記載項目

- 1) 競技の特性・魅力
- 2) 一般的な練習方法と安全確認
- 3) 過去の事故事例（死亡事例や傷害事例等）
- 4) 日常の練習・公式戦（競技会）にある危険性
- 5) 事故防止のための安全対策のポイント（チェックリスト表）

### (3) 作成時期

平成 25 年 6 月 20 日～平成 25 年 12 月 6 日

### (4) 作成者

各競技専門部において競技歴や実技指導歴が長い専門性を持った編集委員 2 名

### (5) 競技専門部数

滋賀県高体連加盟競技 36 競技専門部のうち 35 競技専門部（37 種目）からマニュアルを回収

### 3 調査の方法

#### (1) 方法

マニュアルに関する質問紙によるアンケート調査（別紙アンケート用紙参照）

質問項目は、顧問の競技経験や顧問年数などを問う部活動に関わる項目と、マニュアルの活用状況やその評価に関する項目で構成した。

#### (2) 対象者

滋賀県内の県立全日制高校 46 校の部活動顧問 1,649 人全員を対象に実施し、1,365 人の回答を得た。回収率は 82.8% であった。

#### (3) 実施時期

各校の高体連評議員から本研究の目的、内容について説明を行い、同意を得て郵送方式で実施した。郵送は平成 26 年 12 月 5 日に行い、回答期限を平成 27 年 2 月 27 日とした。

### 4 結果

#### (1) 回答者の属性について

【表 1】には回答者（n=1,365）の属性を、【表 2】に回答者の競技経験と実技指導の有無との関係を示した。現在担当している部活動で実技指導をしている顧問の比率は、競技経験があると答えた顧問では 82.4%、競技経験がないと答えた顧問では 22.9% という結果であった。

また、【図 1-a】に回答者の顧問年数と競技経験の有無との関係について示した。競技経験があるという回答は、顧問年数が 1 年未満で 25.4%、1～3 年で 31.4%、4～9 年で 43.4%、10～19 年で 69.8%、20 年以上で 81.7% であった。【図 1-b】には、回答者の顧問年数と実技指導の有無との関係について示した。実技指導をしているという回答は、1 年未満から順に、26.0%、34.2%、45.3%、74.4%、86.2% であった。

表 1 回答者の属性

属性		n	%	n	%
担当部活動の 競技経験	ある	667	48.9		
	ない	698	51.1		
	計	1365	100.0		
担当部活動の 顧問年数 (前任校含む)	1年未満	252	18.5	551	40.4
	1～3年	299	21.9		
	4～9年	274	20.1		
	10～19年	215	15.8	779	57.1
	20年以上	290	21.2		
	未回答	35	2.6	35	2.6
計	1365	100.0	1365	100.0	
平日の活動日数	1日	19	1.4		
	2日	15	1.1		
	3日	49	3.6		
	4日	489	35.8		
	5日	766	56.1		
	未回答	27	2.0		
計	1365	100.0			
部活動時の 付き添い方	必ず付く	457	33.5	1083	79.3
	できる限り付く	626	45.9		
	活動中一度は足を運ぶ	205	15.0	268	19.6
	生徒だけの活動がほとんど	63	4.6		
	未回答	14	1.0	14	1.0
計	1365	100.0	1365	100.0	
実技指導の有無	している	708	51.9		
	していない	653	47.8		
	未回答	4	0.3		
計	1365	100.0			
マニュアルを読ん だことがあるか	ある	699	51.2		
	ない	666	48.8		
	計	1365	100.0		

表 2 競技経験と実技指導の有無との関係

	回 答 率(%)	
	実技指導あり	実技指導なし
競技経験あり (n=666)	82.4	17.6
競技経験なし (n=695)	22.9	77.1

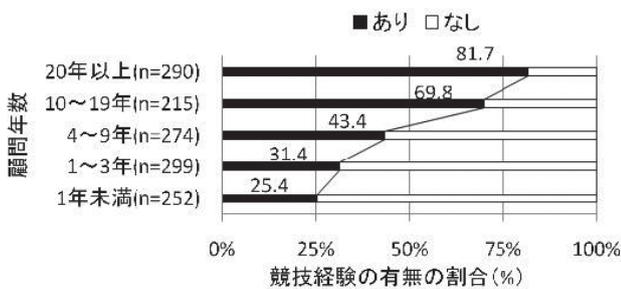


図 1-a 顧問年数と競技経験の有無との関係

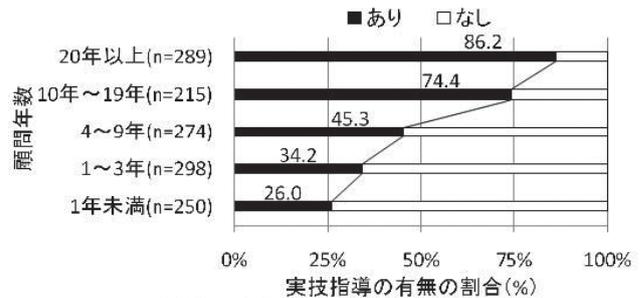


図 1-b 顧問年数と実技指導の有無との関係

## (2) マニュアルへの評価について

アンケートにおいてマニュアル既読者を対象にし、【図 2】に競技の特性、一般的な練習方法と安全確認、過去の事故例、日常の練習・公式戦にある危険性、事故防止の安全対策・チェックリスト（以下それぞれを「特性」、「練習法」、「事故例」、「危険性」、「安全対策」と略す）の 5 項目について評価を集計した。評価は、大いに参考になった、参考になった、どちらともいえない、参考にならなかった（以下それぞれを「大いに」、「参考」、「どちらとも」、「ならない」と略す）の 4 段階とした。

特性では、評価の高い順に、12%、67%、18%、2% で未回答が 1% であった。練習法では順に、12%、65%、20%、2%、1% であった。事故例では順に、21%、66%、10%、0.4%、3% であった。危険性では順に、16%、69%、11%、1%、3% であった。安全対策では順に、18%、64%、14%、1%、3% であった。

自由記述欄に記載された意見は 141 件に上り、内訳はマニュアルに対して肯定的な意見が 51.8%、否定的な意見が 19.9%、その他として、担当する部活動についての現状報告といったどちらにも該当しない意見が 28.4% であった。肯定的な意見のうち 39.8% は「自分自身の意識が高まった」、「安全対策の意識が高まった」といった顧問の意識に関するものであり、34.2% は「過去の事故例が参考になった」「安全対策チェックリストを読んで部活動中の注意点が明確になった」といった安全性・危険性に関するものであった。また、否定的な意見のうち、71.4% は「改訂が必要」、「知っている人にとっては当たり前の内容」といった記載内容に関するものであった。

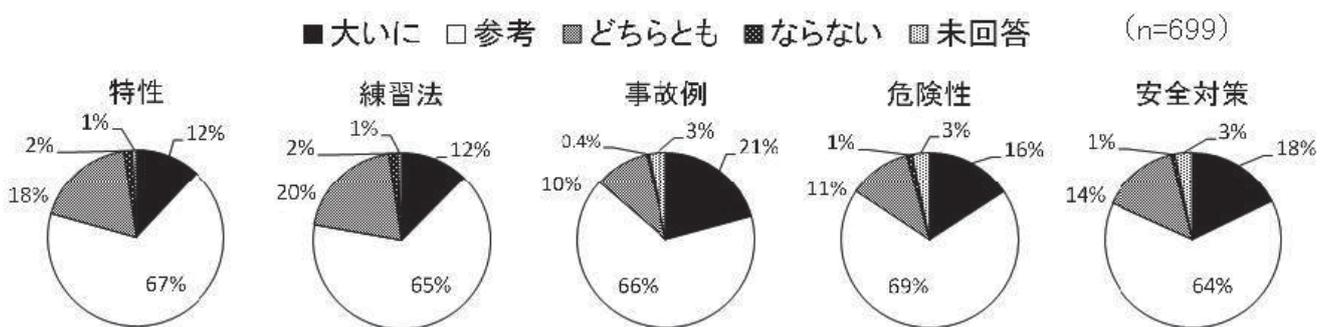


図 2 既読者におけるマニュアルへの評価について

## (3) マニュアルの既読者について

### ① 既読率と競技経験との関係性

アンケートに回答した顧問において、競技経験と既読率との関係を【図 3-a】に示した。競技経験がある顧問で 59.4%、競技経験がない顧問では 43.4% であった。

### ② 既読率と顧問年数との関係性

【図 3-b】に顧問年数と既読率の関係を示した。既読率は顧問年数が 1 年未満で 40.9%、1～3 年

で 45.8%、4～9年で 46.0%、10～19年で 60.9%、20年以上では 65.2%であった。

③ 既読率と付き添い方との関係性

付き添い方《必ず付く、できる限り付く、活動中一度は足を運ぶ、生徒だけの活動がほとんど（以下それぞれを「必ず」、「できる限り」、「一度は」、「生徒だけ」と略す）》と既読率の関係を【図 3-c】に示した。既読率は「必ず」と答えた顧問で 56.9%、「できる限り」で 52.2%、「一度は」で 46.8%、「生徒だけ」では 22.2%であった。

④ 既読率と実技指導との関係性

実技指導をしていると答えた顧問の既読率は 61.4%、していないと答えた顧問の既読率は 40.4%であった【図 3-d】。

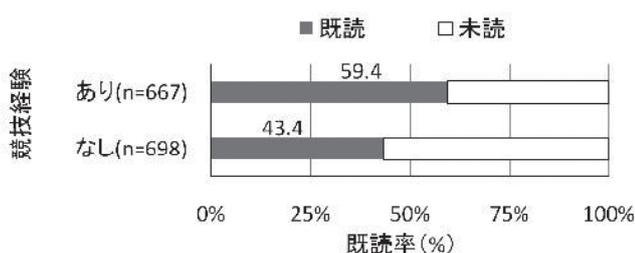


図 3-a 競技経験と既読率の関係

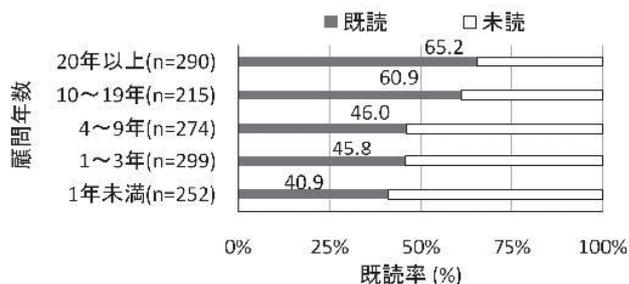


図 3-b 顧問経験と既読率の関係

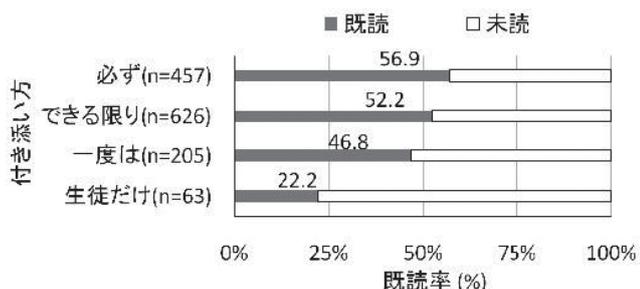


図 3-c 付き添い方と既読率の関係

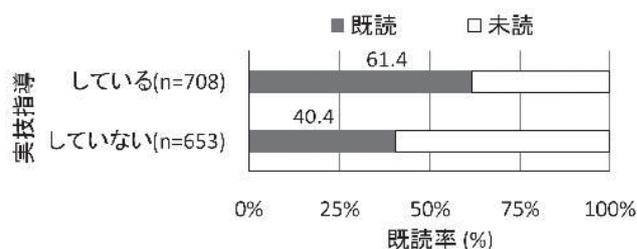


図 3-d 実技指導の有無と既読率の関係

(4) マニュアルの未読者について

① 未読理由の特徴について

【図 4】に未読理由の割合を示した。未読理由は「1. 日頃から危機管理を徹底しているから。」「2. 興味を持てる内容でないため。」「3. 校務多忙のため。」「4. 顧問としての役割が、事務・引率業務が中心だから。」「5. 大きな事故やケガが頻繁に起こらないため。」「6. マニュアルの存在を知らなかったから。」「7. その他」である。

(上記のその他以外を、以下「1. 管理徹底」「2. 興味なし」「3. 多忙」「4. 事務・引率」「5. 事故・ケガなし」「6. 知らない」と略す)

最も多かった回答は「6. 知らない」の 53.4%、次いで、「4. 事務・引率」が 18.4%、「3. 多忙」が 14.7%であった。

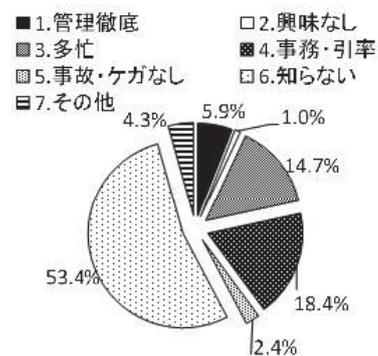


図 4 未読理由

② 未読理由と競技経験との関係性

未読理由と競技経験との関係について【表 3】にまとめた。競技経験がある顧問における理由の割合は、「1. 管理徹底」が 9.7%、「2. 興味なし」が 1.9%、「3. 多忙」が 16.7%、「4. 事務・引率」が 7.4%、

「5. 事故・ケガなし」が3.1%、「6. 知らない」が57.2%、「7. その他」が3.9%であった。また、競技経験がない顧問においては、順に3.3%、0.3%、13.3%、26.0%、1.9%、50.7%、4.6%であった。

表3 未読理由と競技経験の関係

	未読理由 (%)						
	1. 管理徹底	2. 興味なし	3. 多忙	4. 事務・引率	5. 事故・ケガなし	6. 知らない	7. その他
経験あり(n=257)	9.7	1.9	16.7	7.4	3.1	57.2	3.9
経験なし(n=369)	3.3	0.3	13.3	26.0	1.9	50.7	4.6

### ③ 未読理由と実技指導との関係性

未読理由と実技指導について【表4】にまとめた。実技指導をしている顧問の場合、理由の割合は、「1. 管理徹底」から「7. その他」まで順に10.3%、1.6%、19.8%、2.8%、3.2%、57.3%、5.1%であった。また、実技指導をしていない顧問では順に、3.0%、0.5%、11.1%、29.3%、1.9%、50.4%、3.8%であった。

表4 未読理由と実技指導の関係

	未読理由 (%)						
	1. 管理徹底	2. 興味なし	3. 多忙	4. 事務・引率	5. 事故・ケガなし	6. 知らない	7. その他
指導あり(n=253)	10.3	1.6	19.8	2.8	3.2	57.3	5.1
指導なし(n=369)	3.0	0.5	11.1	29.3	1.9	50.4	3.8

## 5 考察

### (1) 回答者の属性について

競技経験と実技指導の有無との関係において、競技経験がある顧問は、部活動中に実技指導をしている割合が高いことが明らかとなった【表2】。顧問年数と競技経験の有無との関係において、顧問年数が高いほど競技経験のある割合が高いことが明らかとなった【図1-a】。また、顧問年数と実技指導の有無との関係において、顧問年数が高いほど部活動中に実技指導をしている割合が高いことが明らかとなった【図1-b】。部活動顧問には専門性が求められるため、競技経験や実技指導の面で専門性を持った顧問は重宝され、同一種目の顧問年数が長くなると考えられる。

### (2) マニュアルへの評価について

【図2】によると、マニュアルに記載された5項目全てにおいて、既読者は「大いに」「参考」合わせて80%前後の評価を示していることから、内容については概ね良好なものと考えられる。しかし、特性、練習法において「どちらとも」「ならない」合わせて20%程度を示し、他項目よりも低評価の割合が高かった。そのため、マニュアルの内容の中でも、この2項目の内容の検討が必要であると考えられる。また、事故例については肯定的な評価が87%に上り、他項目より関心が高いことが伺える。これは、既読者が主顧問、副顧問（第二顧問）に関わらず、部活動中の事故を防止するために、過去の事例から学ぶことが有効であるという評価の表れではないかと考えられる。

アンケートの自由記述欄に寄せられた回答からは、マニュアルを読むことで、未知、既知の事柄を問わず、顧問の意識を向上させ事故防止の重要性を啓発できると考えられる。また、専門性の高い顧問にとっては、物足りない内容であるという意見があったことや、種目によってマニュアルの作成者が異なる実情からも、継続的にマニュアルを更新・改訂していくことが求められていることも読み取れる。

### (3) マニュアルの既読率について

#### ① 既読率とその他項目との関係

【図3】から競技経験がある顧問ほど既読率が高くなること、顧問年数が高い顧問ほど既読率が高

くなること、部活動に積極的に付き添う顧問ほど既読率が高くなること、実技指導をしている顧問ほど既読率が高くなること明らかとなった。上記の特徴を持つ顧問は、主顧問の立場で部活動に携わっている可能性が高く、これまでに部員の事故・ケガ現場に居合わせた経験から安全面に配慮した部活動指導への意識を持ち、マニュアルに対する関心が高かったと考えられる。

上記と対照的な特徴を持つ顧問では、事務・引率を中心とした副顧問（第二顧問）の可能性が高く、第一線で指導に当たっていないことが考えられる。これまで事故やケガの発生現場に居合わせる経験が少なく、居合わせても主顧問や養護教諭等が応急処置に当たるが多かったことで、マニュアルを読む必要性を感じない顧問が相対的に多かったと推測される。

## ② 未読理由とその他項目との関係

マニュアルの未読理由を集計した結果、【図 4】より「6. 知らない」が占める割合が半数以上であることが明らかとなった。また、次いで 18.4% と割合の高かった「4. 事務・引率」について【表 3】や【表 4】のように競技経験や実技指導の有無と関連づけて分析すると、競技経験がない顧問や実技指導をしていない顧問では、「4. 事務・引率」という回答がそれぞれ 26.0%、29.3% と高いものの、競技経験がある顧問では 7.4%、実技指導をしている顧問ではわずか 2.8% と異なる傾向がみられることが明らかとなった。

競技経験がない顧問や実技指導をしていない顧問の中には、事務や引率が仕事という認識により、現場での事故とは無関係であると考えている教員が相対的に多くいるものと考えられる。「現場指導に立っていないときに起こった事故の事例」がマニュアルの中に記載されていれば、競技経験のない顧問や実技指導をしていない顧問も興味を持てる有益な内容になると考える。

## 6 まとめ

今回のアンケートでは本県部活動顧問の 82.8% から回答が得られ、全数に近い調査であったため、本県部活動顧問の実態が明らかとなった。マニュアルは、読んだ顧問の約 80% から肯定的な評価を得られおり、特に、過去の事故例に対して評価が高く、全般的に安全性確保の重要性を再認識できる内容であったと言える。

当初は、マニュアルを専門種目に精通していない経験の浅い顧問にとっての手引書にするという位置づけで作成したが、実際には経験豊富なベテラン顧問のマニュアル既読率が高かった。また、未読者の半数がマニュアルの存在を知らず、事務・引率中心の顧問もマニュアルを手にとらない傾向がみられた。

これらのことから、経験が浅く事務・引率が主たる業務である顧問にとっても手にとりやすい内容へのマニュアル改訂を通して、部活動の顧問を担当する教員が一定以上の危機管理能力を有するような取り組みが重要であると考えられる。一方で、マニュアルのレベルが入門的で物足りなく感じるベテラン顧問に対して、どの点が物足りないのかヒアリングを実施し、より専門的な情報を盛り込んだ別冊を作成することも視野に入れる必要がある。

本調査の結果から、今後は、専門的な記載事項について視覚的に分かりやすい画像を活用し、数年に一度改訂するとともに、競技専門部や所属校単位でマニュアル活用の講習会を実施し、さらなる周知と効果的な運用を図る必要性が示された。